

研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-255
研究課題名 ステロイドパルス療法施行円形脱毛症患者予後因子の解析
研究期間 西暦 2013年 10月（倫理委員会承認後）～2015年 3月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（外来、病棟における診療録および臨床写真）
上記材料の採取期間 西暦 2005年 1月～2012年 12月
意義、目的 円形脱毛症治療におけるパルス療法は、これまでに多くの研究によりその有効性が示されてきた。しかし、円形脱毛症の病型、脱毛面積、発病から治療開始までの期間、アトピー性皮膚炎や自己免疫疾患合併の有無などがその予後にどのように関わるかは明らかにされていない。東北大学病院皮膚科でも、2005年以降、重症円形脱毛症患者に対して、メチルプレドニゾン 500 mg/day を3日間連続して投与するステロイドパルス療法を行ってきた。そこで、本研究では、2005年から2012年までに当院皮膚科にてステロイドパルス療法を施行した円形脱毛症患者カルテを参照し予後因子の解析を行う。この解析を通して、ステロイドパルス療法の有効症例、抵抗症例の特徴を明らかにしステロイドパルス療法の適応基準、予後決定因子を明らかにする。
方法 東北大学病院皮膚科にて、2005年1月から2012年12月までにメチルプレドニゾン 500 mg/day の3日間連続投与によるステロイドパルス療法を行った全症例の外来、病棟カルテを参照し、円形脱毛症の病型、治療前の脱毛面積、発病から治療開始までの期間、アトピー性皮膚炎や自己免疫疾患合併の有無などと治療後の発毛程度との相関を統計的に解析し、予後決定因子を探索する。以上の研究ならびに研究成果報告において、患者個人が特定されうる情報は公開されない。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学病院皮膚科准教授 山崎研志 980-8574 仙台市星陵町1-1 東北大学病院皮膚科 電話：022-717-7271